

バイオサイエンス事業



事業規模の拡大に向け 新商品の開発と事業基盤の強化に注力します

株式会社ニチレイバイオサイエンス 代表取締役社長 **武永 正人**

ニチレイバイオサイエンスは、ニチレイグループの素材調達力とバイオテクノロジー分野の技術力を生かし、分子診断薬、迅速診断薬、バイオ医薬品原料、機能性素材の4つの分野で事業を展開しています。これまで培った技術力・調達力・品質保証力を活かし、高品質の製品・サービスを通じ、医療・健康・バイオ産業の発展に貢献することを目指しています。

ニチレイバイオサイエンス
URL <https://www.nichirei.co.jp/bio/>

事業概況

当社は、分子診断薬事業において癌の診断薬を、迅速診断薬事業ではインフルエンザなどの感染症の診断薬を、機能性素材事業では健康食品や化粧品に使用される機能性素材を、開発・製造・販売しています。バイオ医薬品原料事業では、製薬会社が生産するバイオ医薬品の原料などに使用される培地と血清を輸入販売しています。

現中期経営計画の基本方針として、抗がん剤の投与患者の選択に使用されるコンパニオン診断薬の開発に注力しており、これらを含む分子診断薬事業の展開を加速しています。また、アンメットニーズを解決する商品の開発により事業規模・領域の拡大を図るとともに、新技術に基づく研究開発にも取り組んでいます。

主な取扱い商品



コンパニオン診断薬
ヒストファインALK iAEP®キット



インフルエンザウイルス迅速診断薬
イムノファイン™FLU



機能性素材
アセロラエキス

中期経営計画の進捗状況と今後の方向性

中期経営計画の進捗としては、2017年度は、コンパニオン診断薬やインフルエンザ診断キットなどの販売が順調に推移したことなどにより増収増益となりました。コンパニオン診断薬の展開については、パイプラインの充実を進めました。また、事業規模・領域の拡大を実現するために、サンフランシスコ支社を拠点とした海外展開の準備を進めるとともに、新たな研究開発・生産拠点の建設に着手しました。

中期経営計画最終年度である2018年度は、分子診断薬事業のさらなる成長に向けた施策を推進します。また、研究開発・生産拠点の年度内の竣工を目指して準備を進めます。

TOPIC

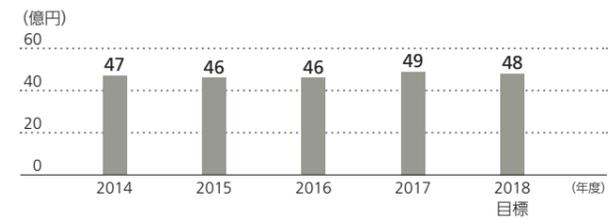
ミャンマーの医療機関に検査薬を提供

2006年度から分子診断薬分野の検査薬を、新潟大学医学部病理学教室を通してミャンマーの医療機関へ無償提供しています。ミャンマーでは今はまだ病理用抗体の入手が困難ですが、同国の発展とともに高度な医療サービスへの需要が高まると予想されています。そのため、病理医の育成や病理研究、診断技術の向上が望まれています。

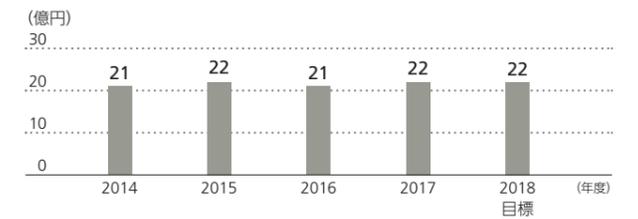
2018年2月には、新潟大学名誉教授の内藤眞先生らがミャンマー第二医科大学を訪れ、当社からの検査薬のほか、病理の教材制作に使われる病理染色例集などを提供しました。今後も継続してミャンマーの医療発展に関わっていきます。

不動産事業

売上高



営業利益



事業概況

不動産事業は、社会情勢や周辺地域に合わせ、社有地を活用してきました。2018年度の外部環境としては、低金利を背景に東京圏の不動産は海外投資家などによる好調状態にあり、また賃貸オフィスビルの空室率低下により賃料も上昇しています。しかし少子高齢化、住宅の空家増加、オフィスワーカーの減少、働き方改革、建設業界の労働力不足、不動産の国際基準化などにより、長期的には業界自体が激変する可能性が高まっています。さまざまな要因を注視し、不動産活用を進めます。

中期経営計画の進捗状況と今後の方向性

2018年3月期の業績は、賃貸オフィスビル事業が空室ゼロを達成し、売上高48.7億円(前期比5.0%増)となりました。これは、顧客ニーズに合わせて賃貸オフィスビルに、セキュリティ強化、多目的トイレの設置、エレベーター改修などを行った成果と考えます。今後も新たな顧客価値を創造し、安定した収益の実現につなげます。

TOPIC

ニチレイソーラータウンの太陽光発電事業

再生可能エネルギーの拡大への期待が寄せられ、特に太陽光発電に対する注目が集まった2011年に、ニチレイも太陽光発電を事業化しました。遊休地として保有していた鳥取県境港市と北海道釧路市の土地が、太陽光発電に適していたことから、「ニチレイソーラータウン」と名付け、2011年11月から太陽光発電所として運営しています。今後も太陽光発電事業の運営と遊休地の有効活用に関するノウハウの蓄積と実践により、環境負荷軽減に貢献します。



「ニチレイソーラータウン」釧路市宝町